

## 第4編 調査結果の概要

## 第4編 調査結果の概要

今回のアンケート調査は、市内全域を対象に、調査票の配布・回収を甲州市民生委員児童委員連絡協議会に依頼し、全民生委員さんが一人当たり概ね10件を目途に、高齢者に対する調査を行っていただきました。アンケートは、自由記載欄を含めた9問にご回答いただき、結果、816件（配布数は概ね1,110件）を回収することができました。

調査結果の概要については、塩山地域6地区、勝沼地域4地区、大和地域1地区のうち、菱山地区以外の10地区において、自家用車によって移動する割合が最多という結果になり、全体で見ると約6割（59.3%）の高齢者が自家用車を運転している実態が分かりました。

これは、「一番便利」、「自分の都合で動けて便利」など、決まりや条件等で運行する他の移動手段と異なり「自由度の高さ」が理由として挙げられています。また、「高齢になっても運転出来るうちは運転する」という強い意識が傾向としてありますが、その反面、「自分の運転に不安を感じる」、「免許の返納を考えているが、その後が不安」、「いつまで運転してよいのか迷っている」といった切実な声があることも事実です。市行政としては、この状況を踏まえ、運転をやめた後も安心して生活が出来る公共交通が不可欠と考えています。

次に、路線バスの利用については、「運行本数が少ない」、「利用する時間帯が合わない」、「バス停が遠い」、「バスの乗降口が高くて大変」、デマンドバス（塩山地域のみ）は、固定客による一定数の利用があるものの、「システムが分からない」、「予約が面倒」、「利用者登録の方法が分からない」、「一回の乗車で何カ所も回れなくて不便」、「急な利用に対応できない」、「バス停が少ない」、「土曜・日曜・祝日に運行してほしい」など運行内容の見直しを求める意見・要望が数多く寄せられました。

民間タクシーについては、「料金（運賃）が高い」、「台数が少ない」、「予約が出来ずに、必要な時に対応してもらえない」、「夜間の台数が少ないため利用できない」などサービスの充実を求められています。

現在、移動手段がなく、移動をあきらめている場所については、「市内外の病院」、「スーパーマーケット」、「勝沼健康福祉センター」、「ドラックストア」が上位を占めています。

なお、問4では、「日頃、買い物や病院など外出の際に、移動手段として使っている交通手段」を伺いました。塩山地域では、「自家用車」46.1%の次に「家族・友人の送迎」25.6%が続いており、「家族・友人の送迎」は、「デマンドバス」7.8%及び「路線バス」6.6%を大きく上回っていることから、デマンドバス等の利用促進を研究する必要があると考えます。また、「家族・友人の送迎」は、勝沼地域が29.7%、大和地域では48.6%に上ることから、将来的にこれに代わる移動手段の検討が求められていることが分かります。

また、設問の問6は「あなたが自動車を運転しなくなったときの移動手段の予定」を伺ったものですが、この問6の結果から本市の将来的な交通ニーズを伺い知ることができます。

塩山地域では、「家族の車で送迎」33.1%が最も多く、「タクシー」32.0%、「デマンドバス」28.8%、「路線バス」23.7%、「徒歩」18.9%、「バイク・自転車」5.4%と続きます。この結果から、さらなる高齢化に伴って、将来的に公共交通の需要は益々高まることが予想されたため、現在行っている運行形態を十分に検証した上で、より便利で利用しやすい公共交通に向けた研究を行う必要があると考えます。

次に勝沼地域は、「家族の車で送迎」30.5%が最も多く、「路線バス」、「タクシー」がいずれも26.5%、「徒歩」15.7%、「バイク・自転車」8.0%となりました。

大和地域は、地域内唯一の市内縦断線である「路線バス」57.1%が最も多く、「家族の車で送迎」22.9%、「タクシー」21.4%、「徒歩」11.4%、「バイク・自転車」1.4%でした。

両地域ともに、「家族の車で送迎」、「路線バス」、「タクシー」が上位になりましたが、家族の負担や利用者の経済的負担の軽減を図るため、定時定路線の「路線バス」や運賃面が課題である「タクシー」を補完するための移動手段が求められています。

よって、現在塩山地域で運行している「デマンドバス」のエリア拡大も検討材料のひとつに加え、今日まで積み上げてきたデマンドバスの運行システムをベースとして検討を行っていく必要があると考えています。

以上、今回のアンケート調査の結果を鑑みると、市民バス・デマンドバス共に、合計利用者数は令和3年度から年々増加していることが分かります。いくつか減少している路線やエリアもありますが、市内3地域における公共交通機関に対する需要は、高齢化の進展に比例して、全体的に高まって行くものと考えます。

また、本市全体の傾向として、運転をやめた後の移動は「家族の車で送迎」が多数を占めており、核家族が増加する昨今においても家族や親族の結び付きが強いことが分かります。しかし、「送迎してもらうことに申し訳なさを感じる」等の意見が多数あることから、今後は高齢者が気兼ねなく、気軽に移動することができるよう、現状の路線バスやデマンドバス事業について見直しが必要になっています。

昨今、全国では、自動運転バス、AIデマンドバス、ライドシェアなど、時代の状況に合わせた住民の移動支援事業が発案され、実用化に向けた取り組みが行われています。本市においても、今後「利用される公共交通の構築」を目指す中で、甲州市地域公共交通会議をはじめとする関係各位のご協力をいただきながら、公共交通事業の効果的な推進を図っていく考えです。